

資料

1. 水の都大阪再生構想 ・ 大阪 花と緑・光と水のまちづくり
2. 「水都大阪2009」の概要
3. 水と光のまちづくりコンセプトの解説
4. 水質の現状
5. 水都大阪の歴史・文化・資源
6. シンボル空間ポテンシャル
7. 現在の水都大阪の取組例
8. 構想の検討組織
9. 構想の検討経過

1. 水の都大阪再生構想 ・ 大阪 花と緑・光と水まちづくり

	水の都大阪再生構想 (H15.3水の都大阪再生協議会)	大阪 花と緑・光と水のまちづくり (H15.3花と緑・光と水懇話会)
目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 国際集客都市 ② 「水・川」をテーマとした「21世紀のモデル都市」の創造 ③ 豊さの創出 	<ul style="list-style-type: none"> ① 世界中から人・資金・情報・知恵が集まる都市 ② 国際集客都市 ③ 大阪の国際競争力強化に向けたアイデンティティの確立
コンセプト	<p>輝け 水の都大阪 ～『時を感じる水の回廊づくり』の推進</p>	<p>四季折々の花と緑あふれ、 美しい光に彩られる水の都</p>
取組方針	<p>(ハード中心)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 美しい水辺のまちをつくる ② 心に響く水辺の賑わいをつくる ③ 水辺をネットワーク化し魅力を高める ④ やすらぎの水環境をつくる 	<p>(ソフト中心)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 都市魅力の再構築 ② 「花と緑・光と水」のまちづくり ③ 大阪らしさへの集中的取組 ④ ビジターを視野に入れたまちづくり
推進方策	<ul style="list-style-type: none"> ① 住民・NPO・企業・経済界・行政などオール大阪による推進 	<ul style="list-style-type: none"> ① 行政・経済界・市民の一致協力 ② 「水の都再生協議会」との連携 ③ 国をはじめ関係各方面との協力と連携 ④ 広域連携

2. 水都大阪2009の概要

名称	水都大阪2009 AQUA METROPOLIS OSAKA 2009
キーワード	連携・継承・継続
開催日程	2009年8月22日(土)～10月12日(月・祝)[52日間]
会場	中之島公園・八軒家浜、水の回廊エリア 他
主催	水都大阪2009実行委員会 (会長:平松邦夫大阪市長)
来場者数	延べ189万6千人
プロデューサー	北川 フラム(アートディレクター) 橋爪 紳也(大阪府立大学教授)
総合アドバイザー	安藤 忠雄(建築家、東京大学名誉教授)
展開方針	<p><u>[アート]</u></p> <ol style="list-style-type: none">①市民と交流・協働するアートでまちづくりを促進②美しい都市空間の実現を促進③創造的人材の育成と集積を促進 <p><u>[市民参加]</u></p> <ol style="list-style-type: none">①街の主役・担い手である「市民」が積極的に参加することにより、次代の社会をつくる”エンジン”となることを推進②都市の利用者である市民の視点からの参加を誘発③市民活動の量と質の向上を促進



2. 水都大阪2009の概要(残された課題)

■水都大阪2009の実行委員会(大阪市平松市長、大阪府橋下知事、関経連会長代理他が出席)で配布された「水都大阪2009」の課題は下記のとおり。

項目	課題
①景観・文化	○水都大阪の 景観と文化をさらに魅力的な形 で訴求していくことが必要。
②人材の育成と集積	○市民参加の目的像を広く市民の間で共有し、自由と自己責任のルールを確立することが必要。また、まちづくりの担い手としてのさらなる意識の熟成も必要。 ○水都大阪2009で培われたまちづくりへの参加に意欲的な市民・NPO・企業家等のアイデア・エネルギーを反映する『 プラットフォームづくり 』が必要。
③アーティストと市民の 多種多様な交流ネットワーク	○水都大阪2009で生まれたアーティストやサポーターのネットワークやアートの持つポテンシャルを、今後のまちづくりに 継続的に活かしていくための仕組み が必要。
④賑わい空間の形成	○水辺と街を一体的な空間として賑わいをつくるには、府と市、河川と公園などの行政管理境界を越えた横断的な取り組みが必要。 ○水辺空間の利活用について、地域や民間事業者による自発的な活動を誘導するために、スムーズな許認可、水辺の公共空間利用における 基準やルールの明確化、体系的な情報提供、基本インフラの整備(電源、サイン等) が必要。
⑤まちづくりに関わる モデル・仕組みの創出	○今回得られた公共空間を活用したまちづくりの ノウハウ・仕組み は、主催者個人にストックされるのではなく、大阪全体が共有する財産として活用することが重要である。 (「公共空間利活用マニュアル」「河川空間における与信整理集」など)



(出典)2010年2月12日 第16回水都大阪2009実行委員会配布資料より抜粋

これらの課題を踏まえて、水と光のまちづくり構想を策定

3. 水と光のまちづくりコンセプトの解説 ①

水都を演出する 美しいデザイン の創出

大阪都心部は秀吉の時代以降、多くの堀川が開かれ、川沿いに次々と新たなまちが生み出されていった。江戸期に15本の堀川が開かれ、大阪独自の美しい水都の風景を形成した。近代に入り、一部の堀川は埋め立てられたものの、大川・道頓堀川など、新たな水辺の景観を形成している。

また、大阪は国内で初めてイルミネーションを実施した内閣勸業博覧会等、歴史的に先進的な光のまちづくりを進めてきた地域でもある。こうした水都の景観や光のまちづくりにさらに磨きをかけ、水都を演出する美しいデザインを形成する。

また、幾度なく受けた水害や震災経験を活かし、安心・安全と美しさを両立したデザインを形成する。

【水都を演出する美しいデザイン(イメージ)】

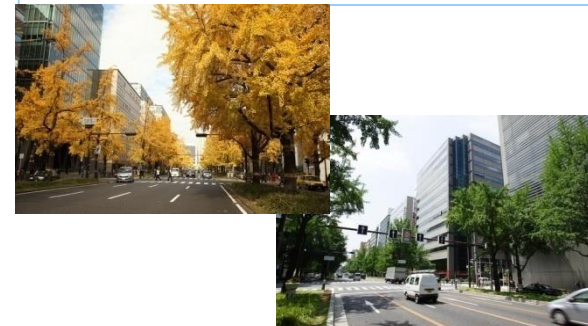
① 昼夜に応じ姿を変える風景



② 安全・安心のデザイン



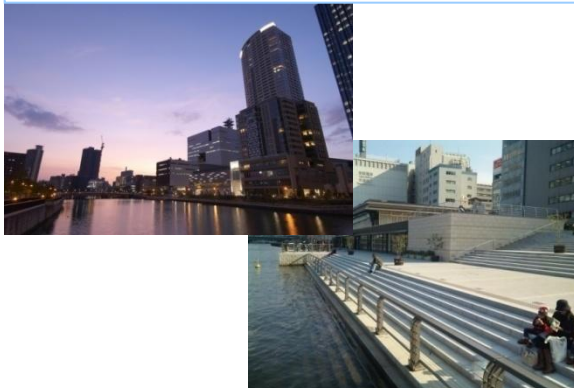
③ 季節に応じ姿を変える風景



④ 舟が行きかう風景



⑤ 絵になる水辺とまちなかの風景



⑥ 地域の個性に応じた景観



3. 水と光のまちづくりコンセプトの解説 ②

まちを使い 魅せるひとびと の育成

大阪は水運を資本として発展する中で、川とともに生きる知恵を育んできた。また、先進的に夜景の演出に取り組んできた姿勢は、見る人を楽しませようとする、大阪人のもてなしの心の表れと言える。これらの商人文化を源泉とするもてなしの心や町人橋に代表される市民協働の姿勢は現在も継承されている。「水都大阪」の歴史と文化を通じて水都大阪に自負と愛着(シビックプライド)を持ちながら、まちを賢く使いこなすひとびとを生み出すまちとなる。

また、先人から受け継いだ川と生きる知恵、もてなしの心を、水辺にふれあう機会などを通じて子どもたちや次世代へ継承する。

【まちを使い、魅せるひとびと(イメージ)】

① まちの賑わいをつくりだす人々



② まちを愛し、水都を守る人々



③ 水を知り尽くした水都の職人



④ 水とともに生きる知恵を学ぶ子どもたち



⑤ まちに彩を与えるアーティスト



⑥ まちを愛する人の「輪」



3. 水と光のまちづくりコンセプトの解説 ③

水都の魅力を体験 できる物語づくり

日本の水運の要衝として栄えてきた大阪の水辺は大いに賑わった場所であった。人・もの・金が集まることで、上方文化など独自の文化を形成してきた。

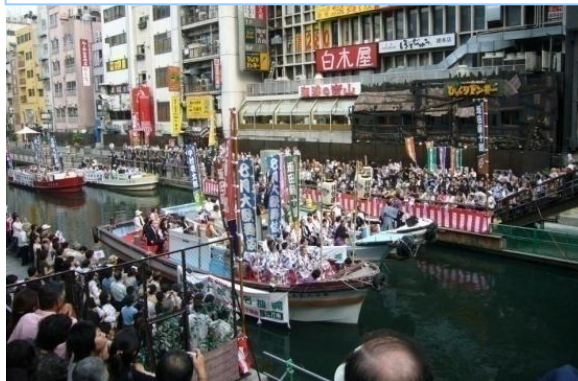
また、近代になり大阪が創り上げてきた先進的な光の景色は、今や大阪を代表する文化となっている。こうした大阪人が創り上げてきた伝統や文化を、現代の都市にふさわしいよう演出し、水都の魅力を体験できる物語のあるまちをつくる。

【水都の魅力を体験できる物語(イメージ)】

① 水都の歴史がつなぐ物語



② 水辺がつなぐ物語



③ 光がつなぐ物語



④ 光が映し出す歴史の物語



⑤ ライフスタイルが生み出す物語



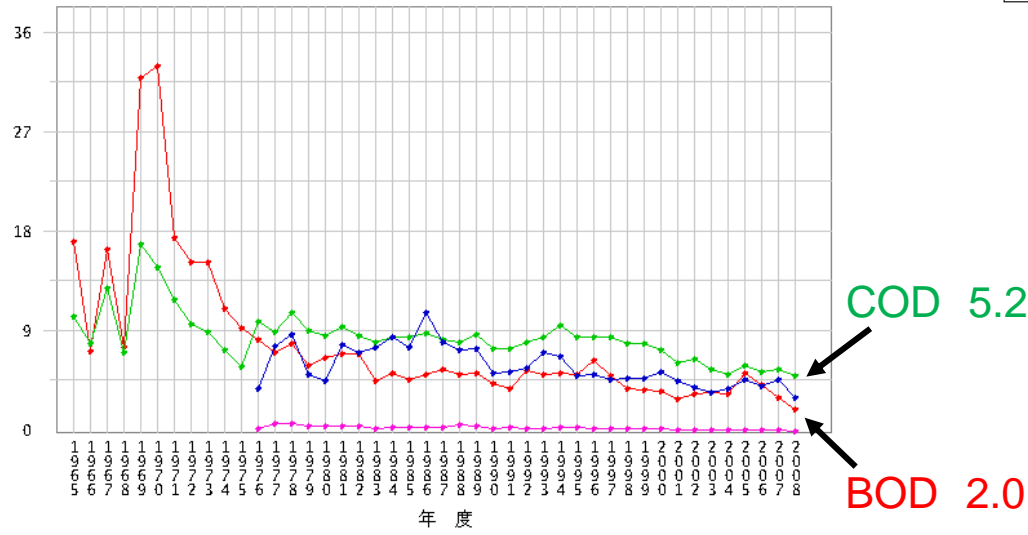
⑥ 出会いが生み出す新たな物語



4. 水質の現状

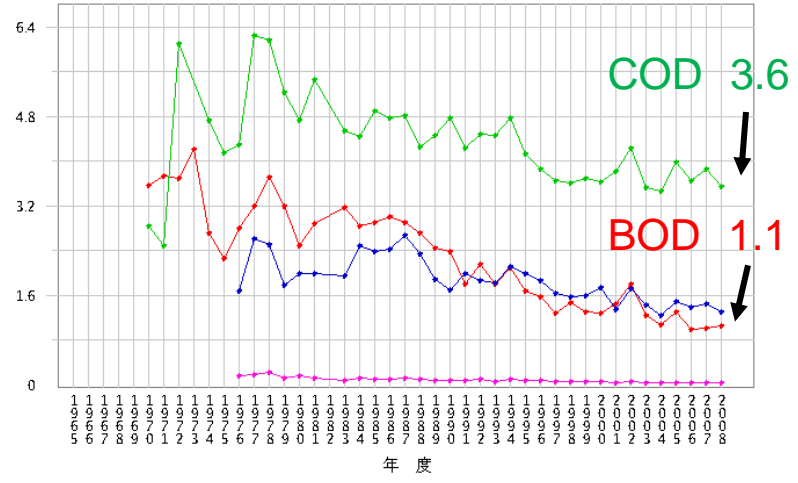
BOD (mg/L)
COD (mg/L)
全窒素 (mg/L)
全磷 (mg/L)

土佐堀川:土佐堀川 天神橋 [環境基準点(C類型)]



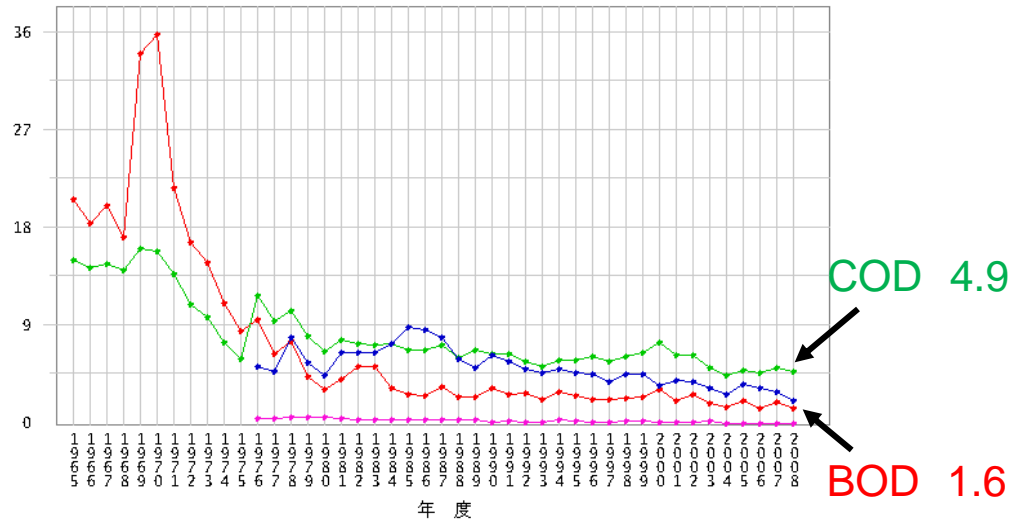
BOD (mg/L)
COD (mg/L)
全窒素 (mg/L)
全磷 (mg/L)

淀川下流(1):淀川 鳥飼大橋流心 [環境基準点(B類型)]



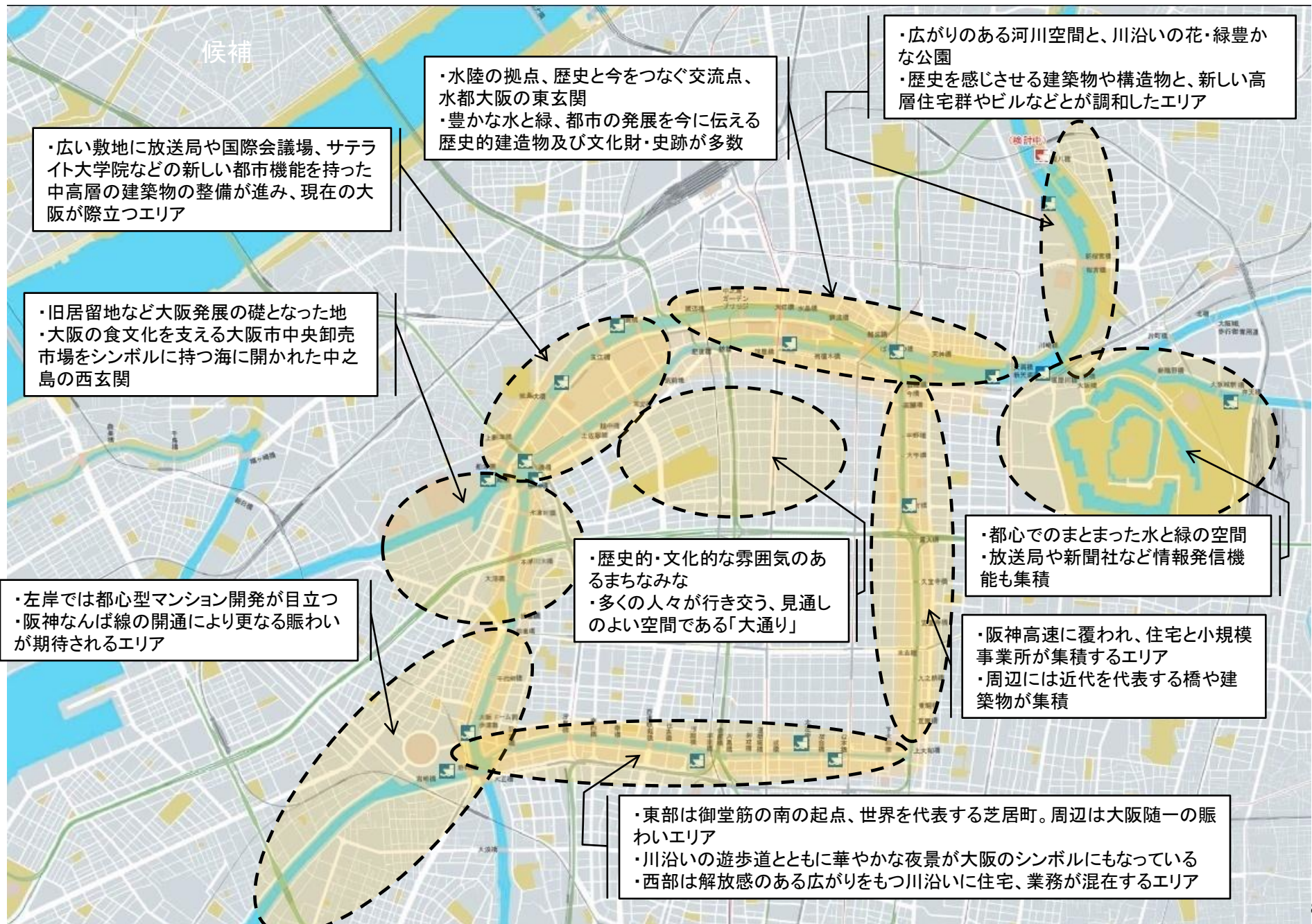
BOD (mg/L)
COD (mg/L)
全窒素 (mg/L)
全磷 (mg/L)

道頓堀川:道頓堀川 大黒橋 [環境基準点(B類型)]



水の回廊の水質は改善され、淀川の水質に近付いている。今後も水の回廊への流入源である寝屋川流域各市での水質保全の取組と連携しながら、下水道設備の充実や、地域住民の水質保全活動の推進を図る必要がある。

5. 水都の歴史・文化・資源(水の回廊周辺)



候補

・広い敷地に放送局や国際会議場、サテライト大学院などの新しい都市機能を持った中高層の建築物の整備が進み、現在の大阪が際立つエリア

・水陸の拠点、歴史と今をつなぐ交流点、水都大阪の東玄関
・豊かな水と緑、都市の発展を今に伝える歴史的建造物及び文化財・史跡が多数

・広がりのある河川空間と、川沿いの花・緑豊かな公園
・歴史を感じさせる建築物や構造物と、新しい高層住宅群やビルなどが調和したエリア

・旧居留地など大阪発展の礎となった地
・大阪の食文化を支える大阪市中央卸売市場をシンボルに持つ海に開かれた中之島の西玄関

・歴史的・文化的な雰囲気のあるまちなみ
・多くの人々が行き交う、見通しのよい空間である「大通り」

・都心でのまとまった水と緑の空間
・放送局や新聞社など情報発信機能も集積

・左岸では都心型マンション開発が目立つ
・阪神なんば線の開通により更なる賑わいが期待されるエリア

・阪神高速に覆われ、住宅と小規模事業所が集積するエリア
・周辺には近代を代表する橋や建築物が集積

・東部は御堂筋の南の起点、世界を代表する芝居町。周辺は大阪随一の賑わいエリア
・川沿いの遊歩道とともに華やかな夜景が大阪のシンボルにもなっている
・西部は解放感のある広がりをもつ川沿いに住宅、業務が混在するエリア

6. シンボル空間ポテンシャル

・水都に纏わる歴史・文化・芸術などの地域資源や、水辺の魅力ある空間を活かした日常、非日常の生活の中で水都を愛するライフスタイルを定着させるポテンシャルの高いエリア

中之島西部エリア

【ポテンシャル】中之島駅、阿波座駅、福島港、大阪国際会議場前港、リーガロイヤルホテル、中之島バンクス、ほたるまち、中之島四丁目開発、大阪国際会議場、江之子島アートセンター、大阪市中央卸売市場

中之島東部エリア

【ポテンシャル】天満橋駅、北浜駅、なにわ橋駅、淀屋橋駅、中之島公園、南天満公園、天満橋港、八軒家浜、キャッスルホテル、シティーモール、遊歩道、川床、水辺空間

大川・桜之宮エリア

【ポテンシャル】桜ノ宮駅、OAP、桜ノ宮公園、OAP港、艇庫、ふれあいの水辺

安治川エリア

【ポテンシャル】西九条駅、安治川トンネル、倉庫跡、居留地跡、大阪市中央卸売市場

大阪城公園エリア

【ポテンシャル】大阪ビジネスパーク駅、大阪城公園駅、大阪城公園、大阪城港、OBP、大阪城ホール、水辺遊歩道

桜島エリア

【ポテンシャル】桜島駅、ユニバーサルシティ駅、USJ、ユニバーサルシティポート、

【ポテンシャル】本町橋船着場(暫定)、東横堀川水門、東横堀川河岸公園、シティプラザホテル

本町橋エリア

【ポテンシャル】弁天町駅、オーク21、弁天埠頭、商業施設

弁天町エリア

【ポテンシャル】ドーム前駅、ドーム前千代崎駅、大正駅、千代崎港、岩崎港、大阪ドーム、水辺遊歩道、商業施設開発

大阪ドーム周辺エリア

【ポテンシャル】なんば駅、日本橋駅、港町船着場、太左衛門橋船着場、商業施設、とんぼりリバービューウォーク、港町リバープレイス

道頓堀エリア

【ポテンシャル】大阪港駅、旅客ターミナル、旧サントリーミュージアム、商業施設、天保山公園、海遊館、

天保山エリア

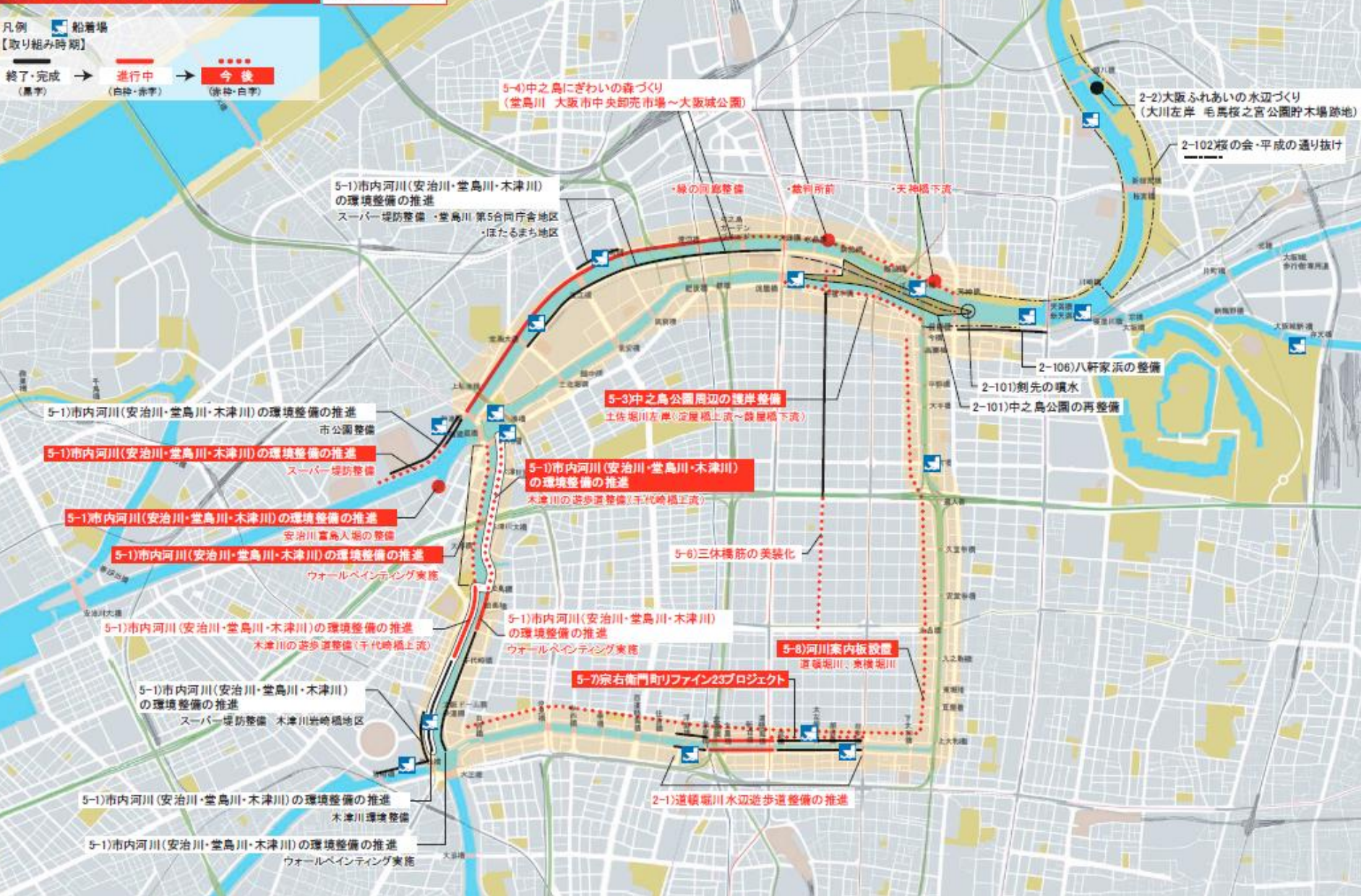
北加賀屋エリア

【ポテンシャル】北加賀屋駅、造船所跡地、工場跡地、空き物件のアート活用

7. 現在の水都大阪の取組例

水の回廊の回遊性向上 【緑化・回廊系】

凡例 船着場
 【取り組み時期】
 終了・完成 (黒字) → 進行中 (白枠・赤字) → 今後 (赤枠・白字)



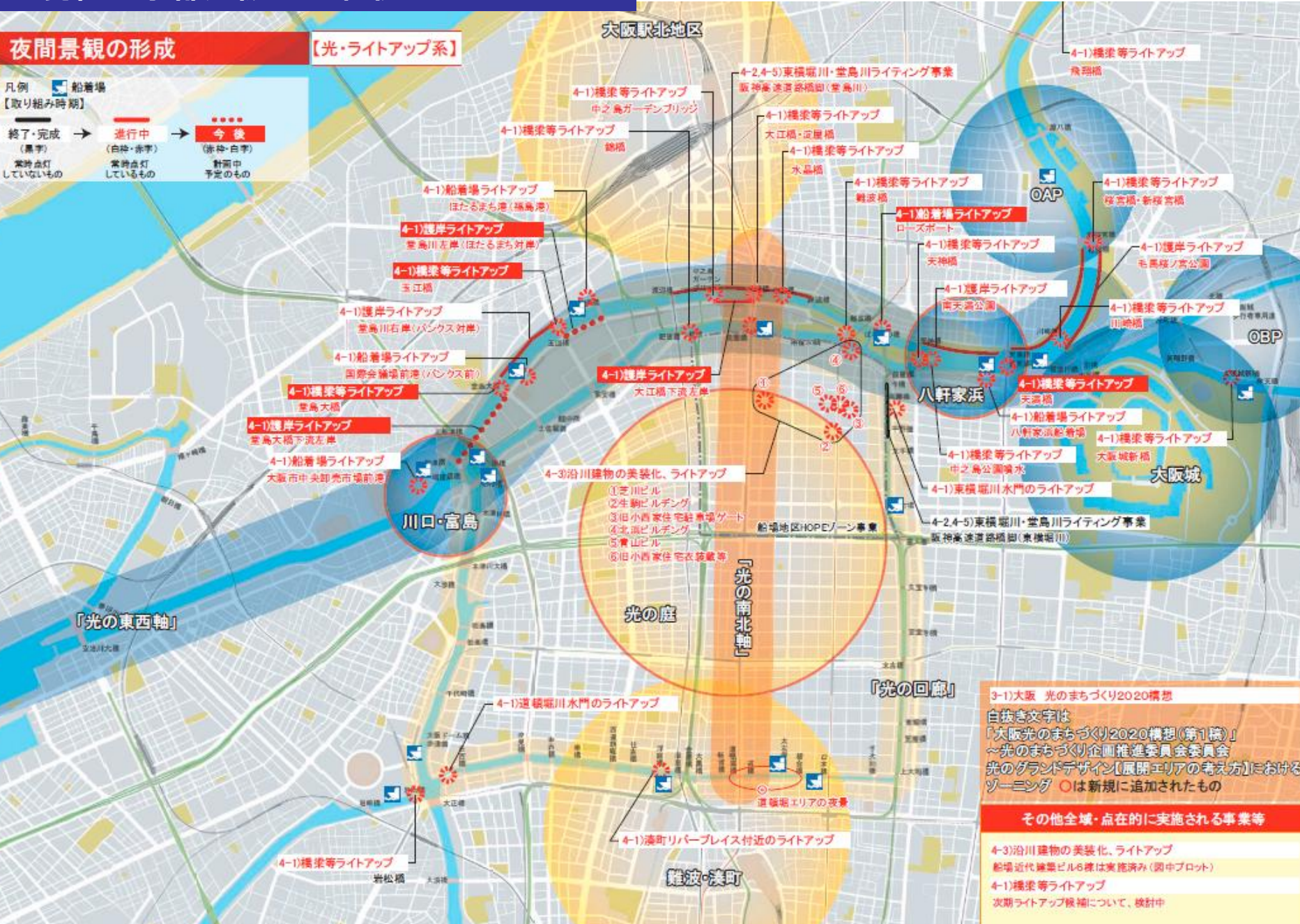
7. 現在の水都大阪の取組例

夜間景観の形成

【光・ライトアップ系】

凡例 船着場
【取り組み時期】

終了・完成 (黒字) 常時点灯していないもの → 進行中 (白枠・赤字) 常時点灯しているもの → 今後 (赤枠・白字) 計画・予定のもの



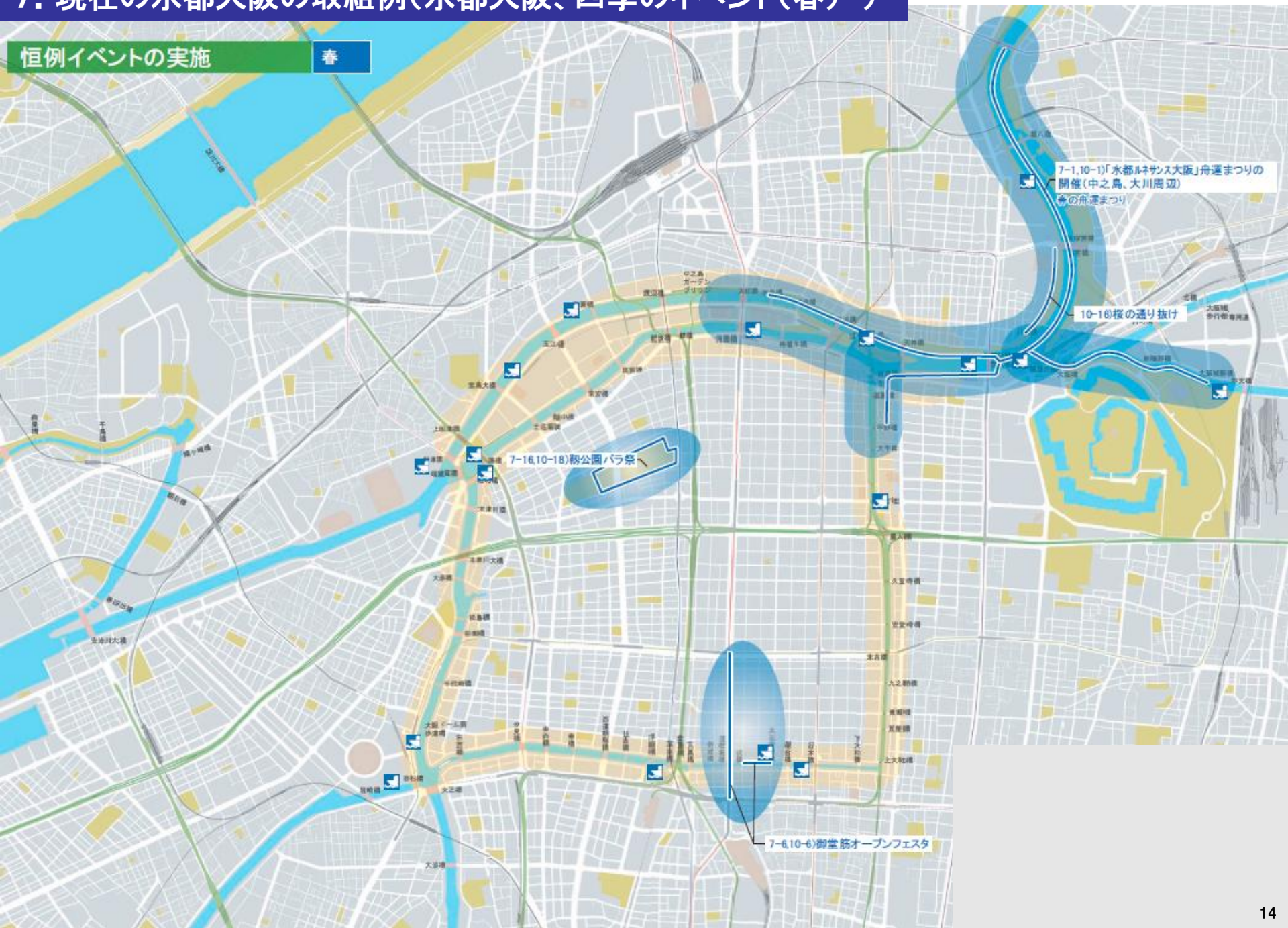
3-1)大阪 光のまちづくり2020構想
白抜き文字は「大阪光のまちづくり2020構想(第1稿)」～光のまちづくり企画推進委員会委員会光のグランドデザイン【展開エリアの考え方】におけるゾーニング ○は新規に追加されたもの

その他全域・点能的に実施される事業等

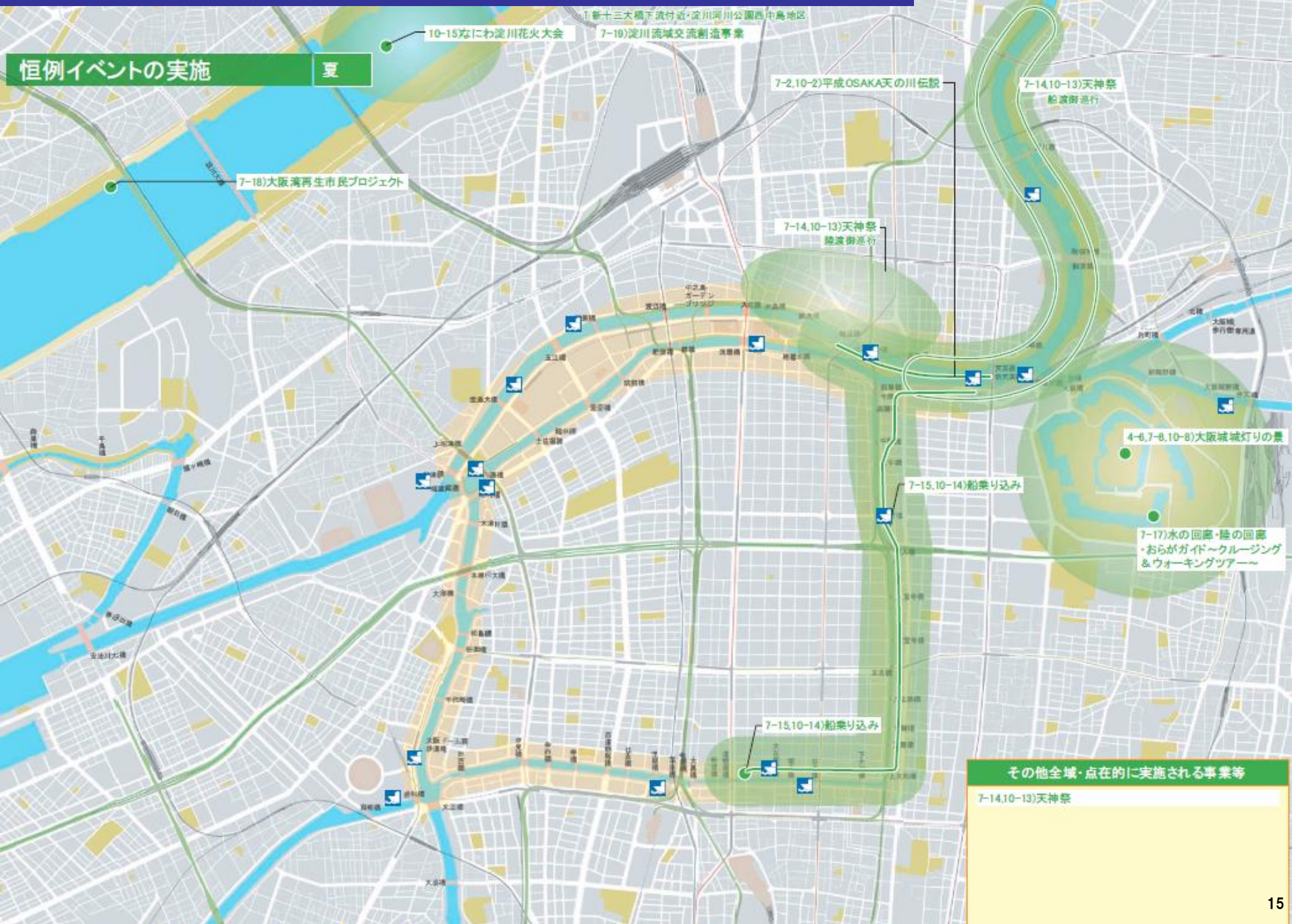
- 4-3)沿川建築物の美化、ライトアップ
船場近代建築ビル6棟は実施済み(図中プロット)
- 4-1)橋梁等ライトアップ
次期ライトアップ候補について、検討中

7. 現在の水都大阪の取組例(水都大阪、四季のイベント(春))

恒例イベントの実施 **春**



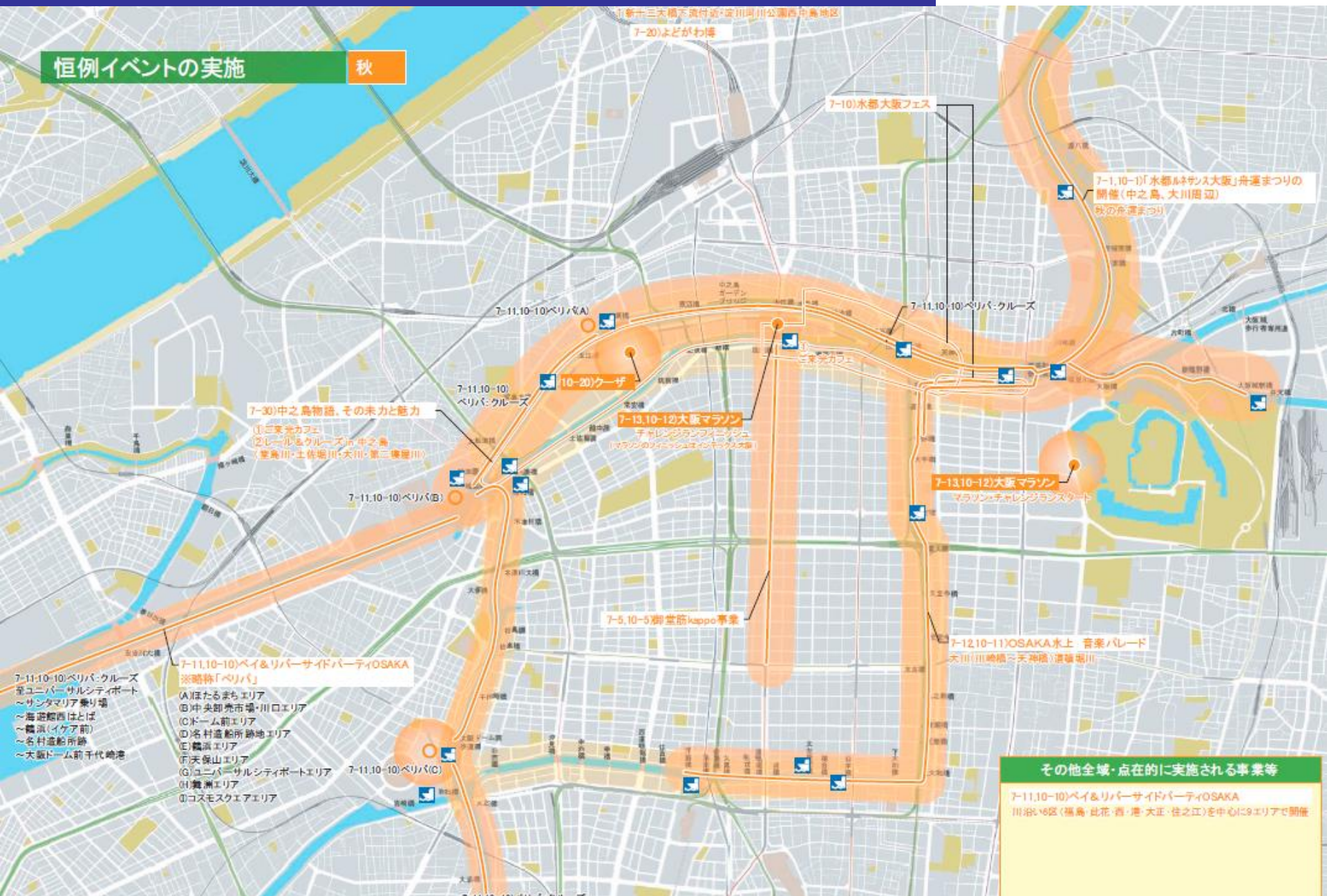
7. 現在の水都大阪の取組例(水都大阪、四季のイベント(夏))



恒例イベントの実施 夏

7. 現在の水都大阪の取組例(水都大阪、四季のイベント(秋))

恒例イベントの実施 秋



7-30)中之島物語、その未来と魅力
 ①三笑光カフェ
 ②レール&クルーズin中之島
 (豊島川・土佐堀川・大川・第二豊屋川)

7-13,10-12)大阪マラソン
 チャレンジランフィニッシュ
 (マラソンのライオンズクラブインターナショナル)

7-13,10-12)大阪マラソン
 マラソン・チャレンジランスタート

7-12,10-11)OSAKA水上音楽パレード
 大川(川崎橋~天神橋)・道頓堀川

7-11,10-10)ベイ&リバーサイドパーティOSAKA
 ※略称「ベリバ」
 (A)ほたるまちエリア
 (B)中央卸売市場・川口エリア
 (C)ドーム前エリア
 (D)各村造船所跡地エリア
 (E)鶴浜エリア
 (F)天保山エリア
 (G)ユニバーサルシティポートエリア
 (H)鶴洲エリア
 (I)コスモスクエアエリア

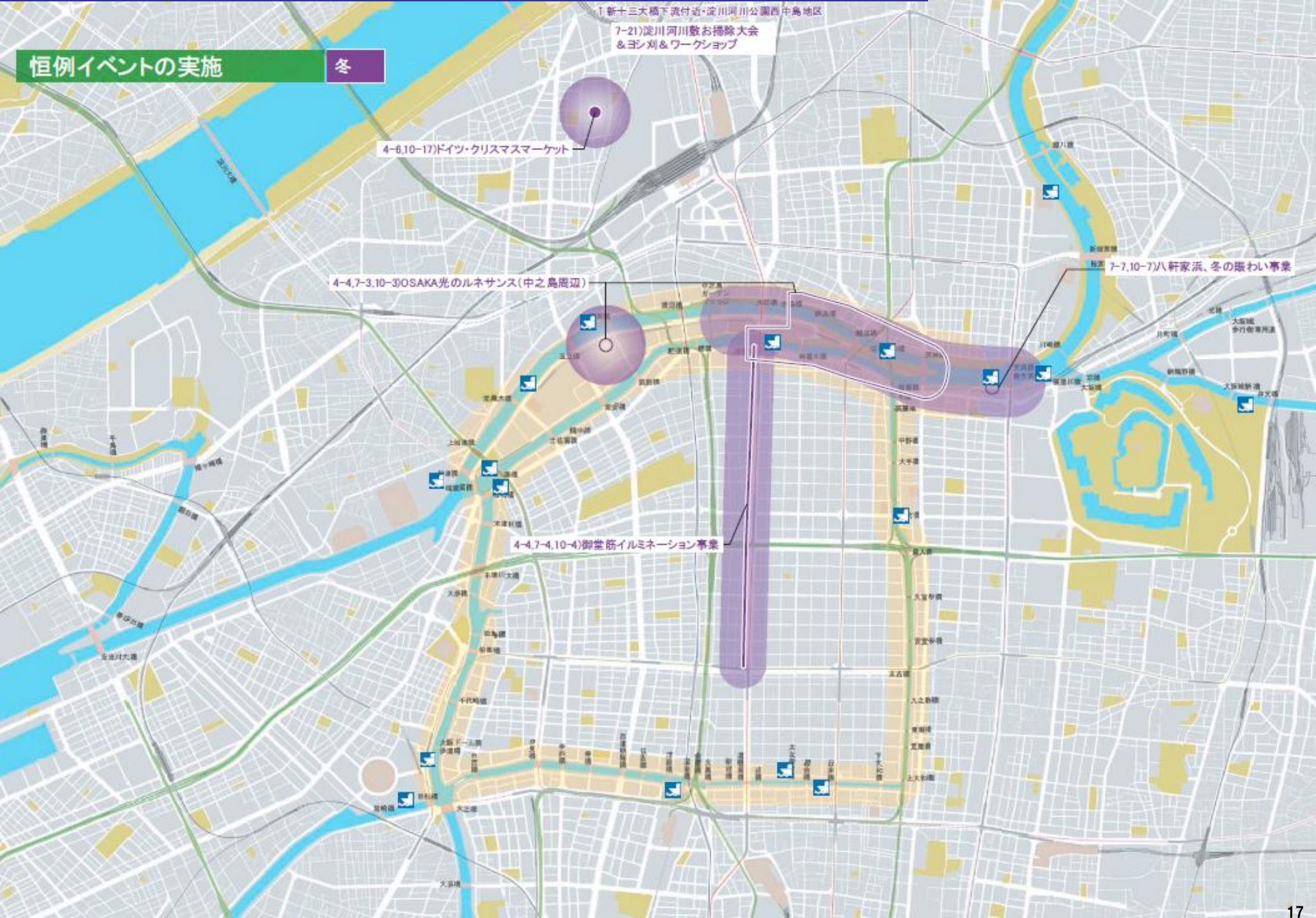
7-11,10-10)ベリバ:クルーズ
 ユニバーサルシティポート
 ~サンタマリア乗り場
 ~海遊館西はとば
 ~鶴浜(イケア前)
 ~各村造船所跡
 ~大阪ドーム前千代崎港

その他全域・点的に実施される事業等

7-11,10-10)ベイ&リバーサイドパーティOSAKA
 川沿い6区(福島・此花・西・港・大正・住之江)を中心に9エリアで開催

7. 現在の水都大阪の取組例(水都大阪、四季のイベント(冬))

恒例イベントの実施 冬



8. 構想の検討組織

■ 構想の検討組織

水都大阪推進委員会 (平成22年4月設立)

○委員長

大阪市副市長

北山 啓三

○委員

大阪市ゆとりとみどり振興局長

野々村 節子

大阪市計画調整局長

北村 英和

大阪市建設局長

西尾 誠

大阪府府民文化部都市魅力創造局長

新井 純

大阪府都市整備部河川室長

辰谷 義明

公益社団法人関西経済連合会専務理事

川邊 辰也

大阪商工会議所専務理事

灘本 正博

社団法人関西経済同友会常任幹事兼事務局長

齊藤 行巨

財団法人大阪21世紀協会執行理事兼事務局長

佐々木 洋三

財団法人大阪観光コンベンション協会理事長

水本 敏一

経済産業省近畿経済産業局総務企画部長

中村 稔

国土交通省近畿地方整備局企画部長

大塚 俊介

国土交通省近畿運輸局企画観光部長

森 宏之

独立行政法人都市再生機構西日本支社副支社長

渡部久仁雄

阪神高速道路株式会社環境景観室長

中坪 周作

光のまちづくり企画推進委員会委員長

北野 剛人

水辺のまちづくり企画推進委員会委員長

山田 一信

○アドバイザー

大阪府立大学学長・理事長

奥野 武俊

大阪市立大学准教授

嘉名 光市

滋賀県立大学准教授

近藤 隆二郎

大阪府立大学教授

橋爪 紳也

滋賀大学理事

室井 明

■ 関連組織

水都大阪推進懇話会

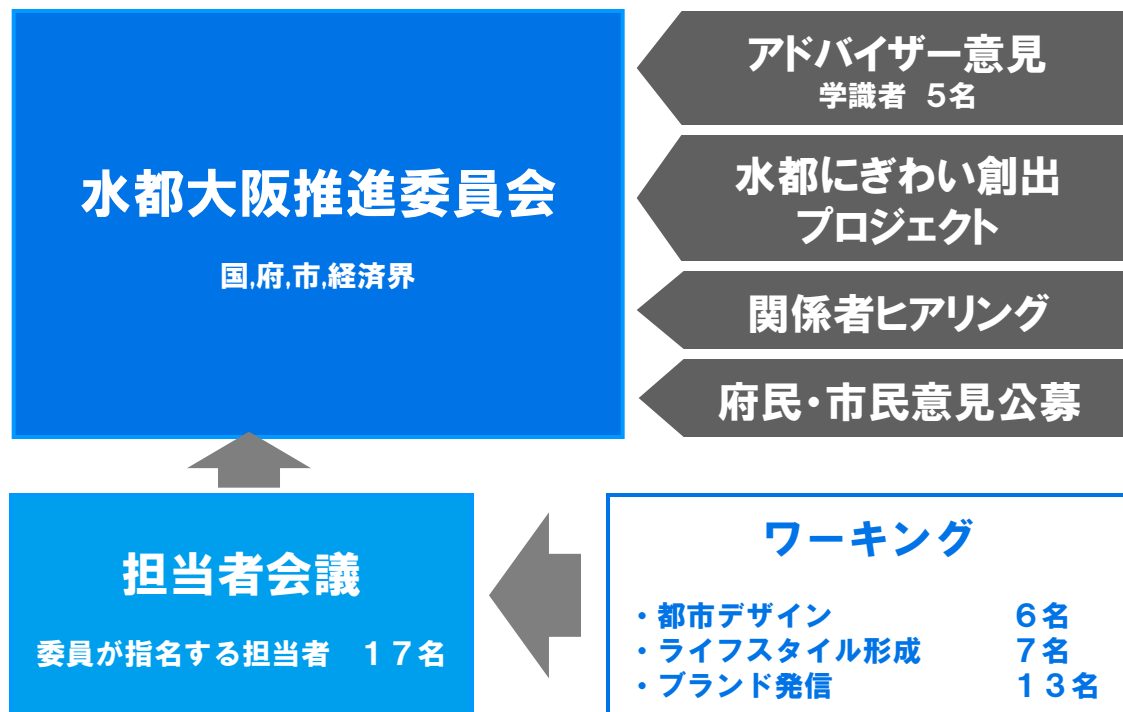
水都大阪推進委員会

水都賑わい創出実行委員会

水辺のまちづくり企画推進委員会

光のまちづくり企画推進委員会

9.構想の検討経過



【委員会の検討内容】

- 第1回委員会 平成22年4月13日(火)
委員会規約設置、委員長・副委員長等の選出 等
- 第2回委員会 平成22年6月25日(金)(書面表決)
水都大阪ロゴマーク決定
- 第3回委員会 平成22年9月22日(水)
恒常的な水辺のにぎわい創出活動支援事業 及び水と光のまちづくり構想第一次取りまとめ内容を審議 等
- 第4回委員会 平成22年12月22日(水)(書面表決)
水と光のまちづくり構想ワーキング・グループの設置
- 第5回委員会 平成23年3月31日(木)(書面表決)
恒常的な水辺のにぎわい創出活動支援事業を審議 水と光のまちづくり構想第二次取りまとめ報告 等
- 第6回委員会 平成23年5月31日(火)
水と光のまちづくり構想の取りまとめに向けて意見交換 等
- 第7回委員会 平成23年6月28日(火)
水と光のまちづくり構想(案)審議 等
- 第8回委員会 平成23年8月31日(水)(書面表決)
水と光のまちづくり構想の取りまとめ 恒常的な水辺のにぎわい創出活動支援事業2次募集を審議 等